

(望岳山荘にて)国際都市・松本(市民タイムス-1990.07.20)

望岳山荘
にて

今年も間もなく夏休み
のシーズンだ。例年の
ことだが、七月下旬
から八月上旬頃になる
と、ヴァイオリンを携
えた子供や母親の姿が
松本の街角に急に多く
なる。いまや郷里の新
しい風物誌だとも言え
よう。松本に本拠を置
く才能教育研究会が市
民会館やあがたの森を
中心に夏季学校を開催
し、全国から千三百四
百名名の生徒が集まる
からであるが、そのな
かには、オーストラリ
ア、アメリカ、西ドイ
ツなどからの外国の子
供達も多勢交っている。
このよすがな催しも、

ほぼ二十年近い年月を
経ており、それだけで
も国際文化交流史の貴
重な一齣なのだが、松
本には、鈴木メソッド
の研究生として滞在す
る外国人が常時三十名
前後はいるのではなか
らうか。

私は昨春、松本青年

国際都市・松本

曲第一楽章を鈴木先生
の指導で斉奏する外国
人研究生が二十名近く
壇上にいるのではない
か。こんな光景は全世
界のどこにも存在しな
い。私はいたく感激し
たのであった。

最近はいわゆる国
際化ばかりで、全国各

会議所の諸君が国際化
の問題について私を講
演に招いてくれた折、
ほぼ四十年ぶりに鈴木
鎮一先生のままで私自
身も独奏し、また、そ
の日の午後は、鈴木先
生のレッスンを久しぶ
りに拝見したのだが、
なんとチャイコフスキ
ーのヴァイオリン協奏

地の地方都市がやれ国
際交流センターだの、
国際コンベンション・
センターだのと唱えは
じめている。

私自身、この七月十
一日から十四日まで東
京と大磯で開かれた

「アジア・オープン・
フォーラム」の実行委
員長として多忙をきわ

めたばかりだが、この
ところしばしば東京と
大磯というパターンで
国際会議を開いている
私としては、たとえば
上高地の帝国ホテルで
国際会議が開けたら、
と思うことがしばしば
であり、また、松本周
辺にもそんな場所が欲
しいと思つて。

だが、私が松本市民
会館前の才能教育会館
ホールで出会ったよう
な感動を与えてくれて
こそ、国際化と国際交
流に本当の意義がある
のではなからうか。こ
の点ですでに松本は日
本一の国際都市なのだ
と言えよう。

(中嶋 鎮雄・東京外
語大教授)